EMPES C

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、 身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

往時の栄華を今に伝える「繁栄橋」 ~ 静かにたたずむ土木遺構 ~

江戸時代から昭和にかけ交通の要衝として栄えた壬生川 港の象徴「繁栄橋」。その欄干と常夜灯が、国道196号沿い、 おかげん祭の花火で有名な鷺森神社の境内と近隣地に離れ ばなれとなり今も残されているのをご存じでしょうか。

松山藩初代藩主・松平定行は、藩の東の玄関口にふさわ しい港町を建設しようと、壬生川港堀川の築港と大新田の 干潟干拓を計画、約20年もの歳月をかけて明暦2 (1656)年 に竣工させました。そしてこの地に多くの繁栄がもたらさ れることを願い、堀川に注ぐ中川の河口に架けた橋に「繁 栄橋」と名付けたのです。この繁栄橋を起点にして、南は 小松藩を経て西条藩に、北は今治藩に至る南北道や、松山 城下町札之辻(現在の本町)に通じる中山道の二本の街道 など、壬生川港と各地を結ぶ道路網も整備されました。

かつては毎夜灯されていた橋のたもとの常夜灯も、明治 40年頃の石橋への架け替えと合わせその役目を終え、そし てついに、平成11年の国道196号の道路拡張工事により、 繁栄橋は取り壊されることになりました。しかしながら関 係者の強い熱意が実り、欄干部分は鷺森神社近くの歩道内 に、常夜灯は境内にそれぞれ移設復元され、当時の風情を 今に伝えています。 (参考文献:壬生川郷土誌)





暨森神社

丹原総合支所

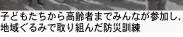
〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

自分たちの地域は自分たちで守る

~ 来見自主防災会 ~

来見自主防災会は、来見自治会が母体となって平成18年 12月に設立された自主防災組織で、結成後、毎年実施して いる防災訓練は今年で5回目を数えています。その主な活 動は、地域住民への防災知識の普及、地域の災害危険箇所 や内容の把握、防災資機材等の点検や整備などです。







去る3月に開催された今年の防災訓練には、約150人も の住民が参加しました。まず、地元消防団が火災発生時の 消火栓の取り扱い方を披露し、その後、来見集会所で丹原 西中学校の廣田和夫教頭による、校区内を東西に走ってい る世界的にも有名な断層「中央構造線」に関する地質学か らのお話をしていただきました。折りしも東日本大震災の 発生直後であったことから、参加者の皆さんは現実的な話 として熱心に受講していました。

講演の後は、消防団による放水訓練の見学や、食糧班の 炊き出し訓練を行って解散となりました。

「自分たちの地 いつ発生するか分からない災害に備え、 域は自分たちで守る」という強い連帯感で、地域住民が自 主的に協力し合う自主防災組織。

皆さんも地域防災力の向上のために参加しましょう!

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

名筆家と名高い小松藩主の書

~ 市内に残る奉納扁額 ~

なおはる 一柳直卿は小松藩の第三代藩主です。父の直治は60年以 上の長きにわたり、二代藩主として初期の小松藩の整備を 手掛けました。このため、直卿が藩主に就いたのは40歳の 時でしたが、それまでの期間に広範な学問や修行を積み高 い教養と人格を具え、江戸時代中期に頻発した飢饉(きき ん)・災害・幕府公役などの困難を乗り切りました。

直卿は書を好み、漢詩・和歌から仏教経文をはじめ、通 常は藩主が書くことのない幕府提出の重要文書や家臣への お達し状、果ては菩提寺である仏心寺に禁令の立て札まで 書き与えました。その書は古今の様式や書体を極め、気品 と教養にあふれ生真面目ながら気骨ある人柄が感じられる もので、当時三百諸侯のうち随一の名筆家と言われ、将軍

の子に手本を書いて献上したと伝えられています。また信 仰心にも厚く、千面を目標に扁額(建物の内外や山門・鳥 居などの高い位置に掲げられる額)を謹書し寺社に奉納し ました。それらのうち50面以上が東予地方に現存し、小松 地区の書跡1件・扁額等14件と、東予地区の2社10カ寺の 扁額が、それぞれ西条市文化財の指定を受けており、その ほかに西条や丹原の寺社でも存在が確認されています。

詳しくは小松温芳図書館(TEL0898-72-5634)でご案内 します。寺社を訪ね、その書を鑑賞してはいかがですか。





▲小松地区 仏心寺「円覚山」扁額 ▲東予地区 長福寺「長福寺」扁額